

平成30年度 学生の意識啓発に関する調査研究事業 報告書

アバンセでは、毎年、佐賀県内の各大学と共催で「学生への意識啓発事業」を実施しています。

この事業では、大学、短期大学の学生の皆さんに男女共同参画の意識を高めていただくために、キャリアデザインやワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした講座を行っています。

今年度は、九州龍谷短期大学において、佐賀県内で働く社会人をパネリストに迎え、「先輩たちに学ぶ これからのキャリアデザイン」のテーマでパネルトークを開催しました。

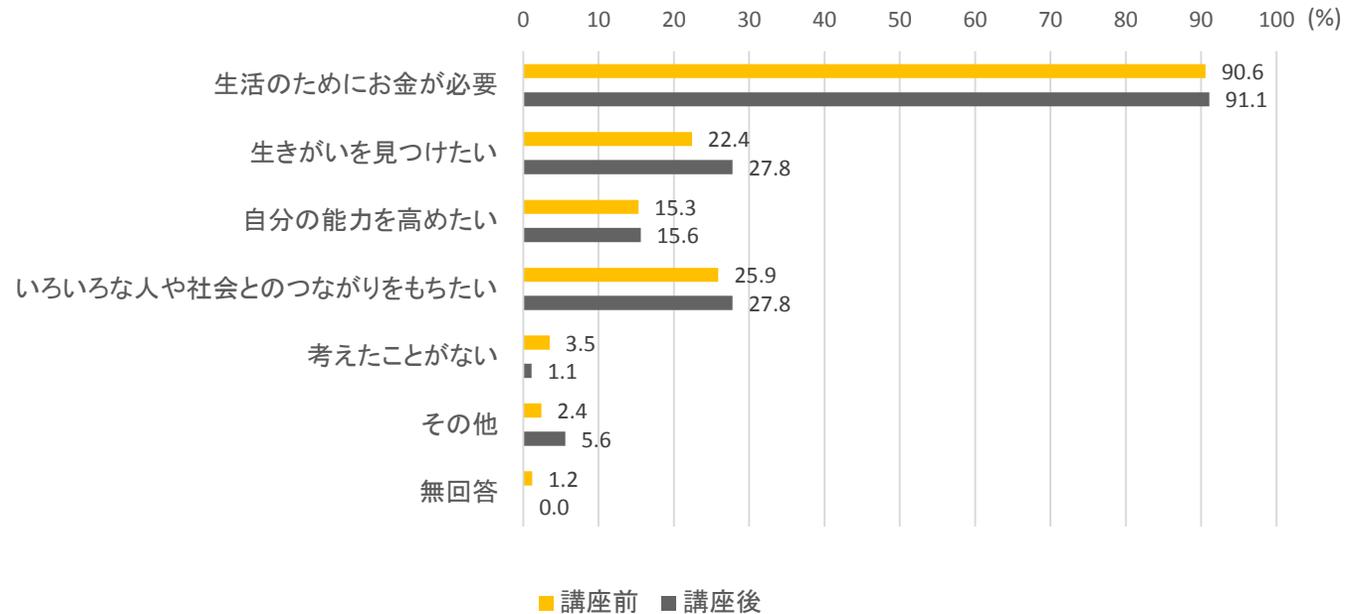
また、講座の前後には、講座に参加する前と後での意識の変化を見るために、アンケート調査を実施しました。

就職を数年後に控えた学生が、「働く」ことについてどのように考えているのか、働く目的や地域選択、女性の働き方等についての意識の変化を報告します。

佐賀県立男女共同参画センター（アバンセ）

- 講座実施日／平成30年11月15日（木）
- アンケート実施日／事前アンケート：平成30年11月8日（木）、11月9日（金）
事後アンケート：平成30年11月22日（木）、11月23日（金）
- 対象／九州龍谷短期大学1年生（保育学科、人間コミュニティ学科）
- 人数／事前アンケート：85名（女性70名、男性15名）
事後アンケート：90名（女性72名、男性17名、無回答1名）

問1 働く目的について、どのように考えるか？（複数回答可）



～問1「その他」の理由～

【事業前】

- ・ 勤労は日本国民の義務だから
- ・ 趣味にお金を使うから

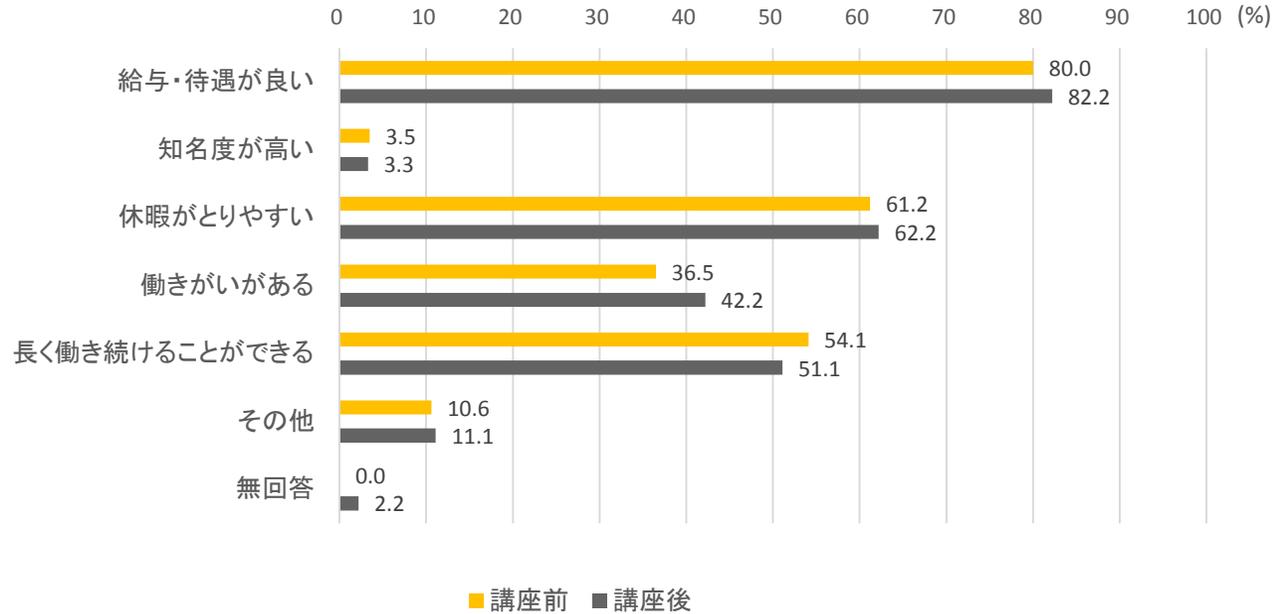
【事業後】

- ・ 趣味に没頭したいから
- ・ 人生の時間を無駄にしないため
- ・ 趣味のため
- ・ 自立したい、趣味にお金を使いたいから

〔傾向〕

働く目的をたずねた結果をみると、「生活のためにお金が必要」と答えた学生が講座の前後とも9割を超えており、多くの学生が「生きるために働く」という意識を持っていることがわかる。講座前後の変化として、「生きがいを見つけない」は22.4%から5.4%増え27.8%に、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」は25.9%から1.9%増え27.8%となった。「考えたことがない」は3.5%から2.4%減り1.1%となった。また、その他の理由として、「趣味」を目的に挙げた学生も複数みられた。

問2 就職先を選ぶ基準として何を重視するか？(複数回答可)



〔傾向〕

就職先を選ぶ基準として、「給与・待遇が良い」と答えた学生が講座の前後とも8割を超えており、多くの学生が給与・待遇面を重視している。

講座前後の変化として、「働きがいがある」は36.5%から5.7%増え42.2%に、「長く働き続けることができる」は54.1%から3.0%減り51.1%となった。

また、その他の回答として、「人間関係」や「福利厚生」などを重視する意見が複数挙げられていた。

～問2「その他」の理由～

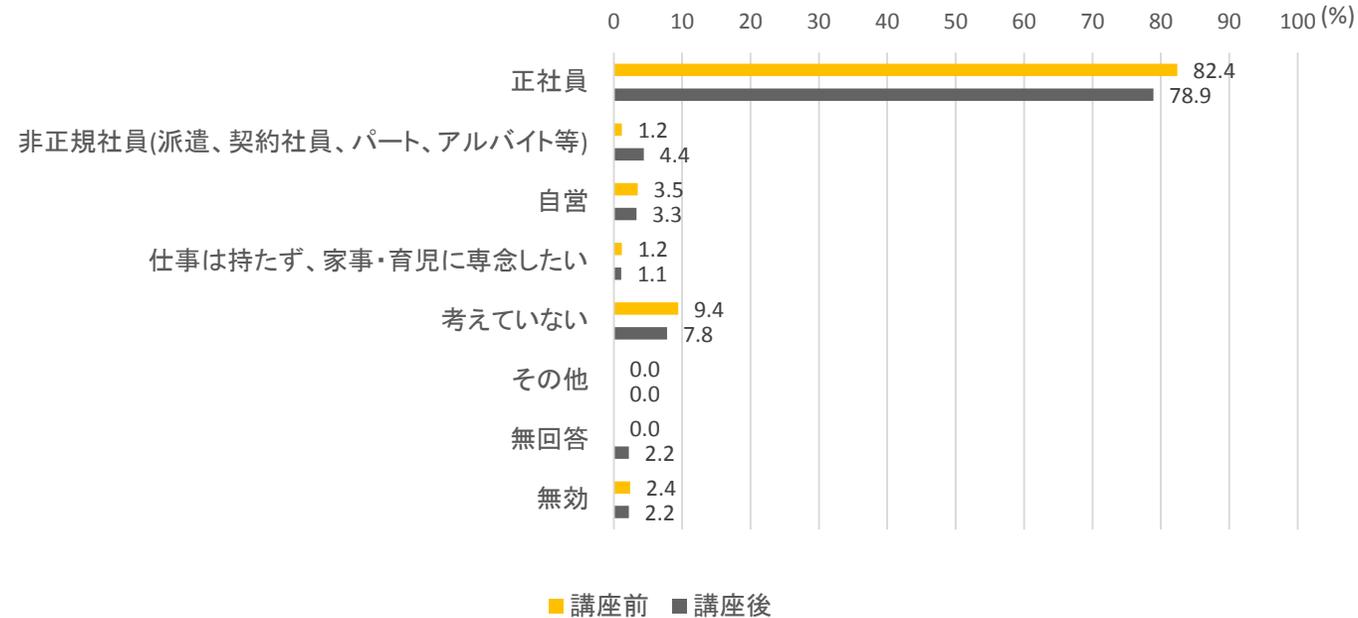
【事前アンケート】

- ・人間関係
- ・人間関係が良い
- ・人間関係が良好
- ・職場の雰囲気
- ・雰囲気がいい
- ・労基法をどれだけ守っているか
- ・福利厚生、昇給しやすい、労働時間、能力給
- ・自分のやりたいこと
- ・特にない

【事後アンケート】

- ・人間関係
- ・人間関係がよいところ
- ・体力があまりいらぬ
- ・定時に帰れる、上司が優しい
- ・福利厚生
- ・家
- ・昇給制度、福利厚生がしっかりしている

問3 働くときには、どのような形態を選ぶか？



～問3「その他」の理由～

【事業前】

記載なし

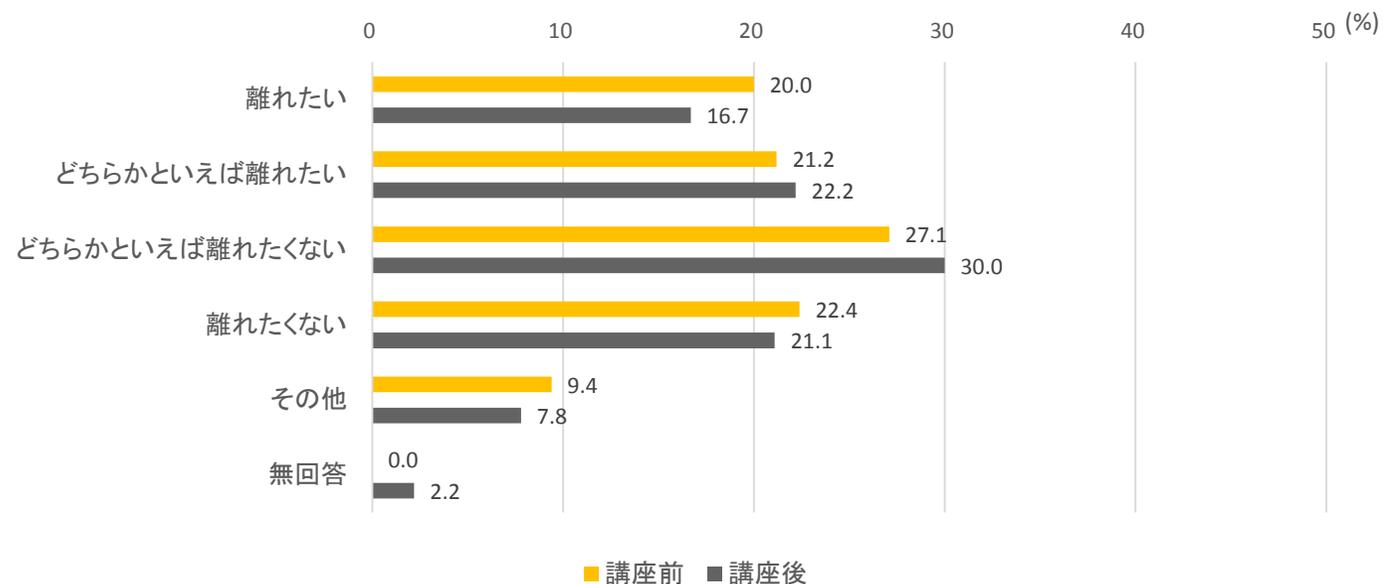
【事業後】

記載なし

〔傾向〕

働くときの形態として、講座前は正社員が82.4%であったのが、講座後には3.5%減り78.9%となった。また、非正規社員と回答した学生は、講座前は1.2%であったのが、講座後は3.2%増え4.4%となった。

問4 働くときには地元を離れたいか？



～問4「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・どちらでもよい
- ・離れられない
- ・まだわからない
- ・自らの成長のために離れたいけど、奨学金の関係上離れられない

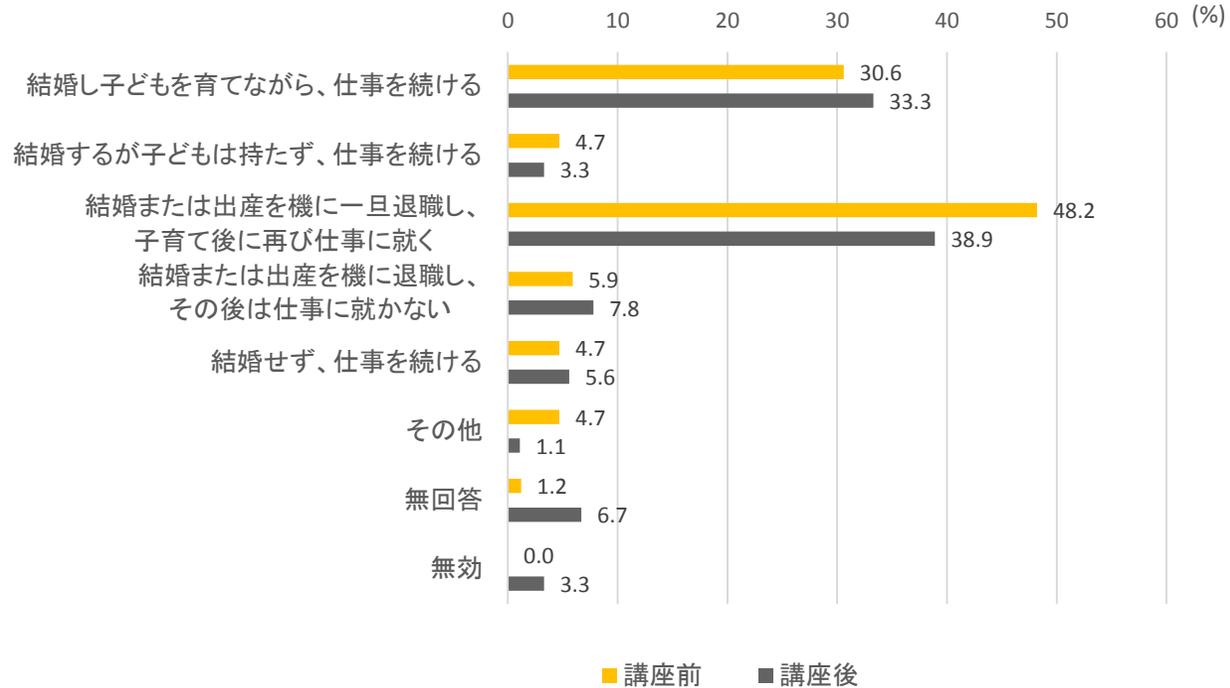
【事後アンケート】

- ・どちらでもよい
- ・離れられない
- ・離れたいけど奨学金の関係上離れられない
- ・わかりません

〔傾向〕

「働くときには地元を離れたいか」の問いでは、「離れたい」は20.0%から3.3%減り16.7%に、「どちらかといえば離れたくない」は27.1%から2.9%増え30.0%となった。また、その他の回答として、「わからない」が複数みられ、就職先が決まらなると判断できないことも伺える。

問5 女性の働き方について、次のどの考えにもっとも近いのか？



～問5「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・家庭による
- ・場合による
- ・個人の自由
- ・結婚せず趣味を楽しみながら仕事

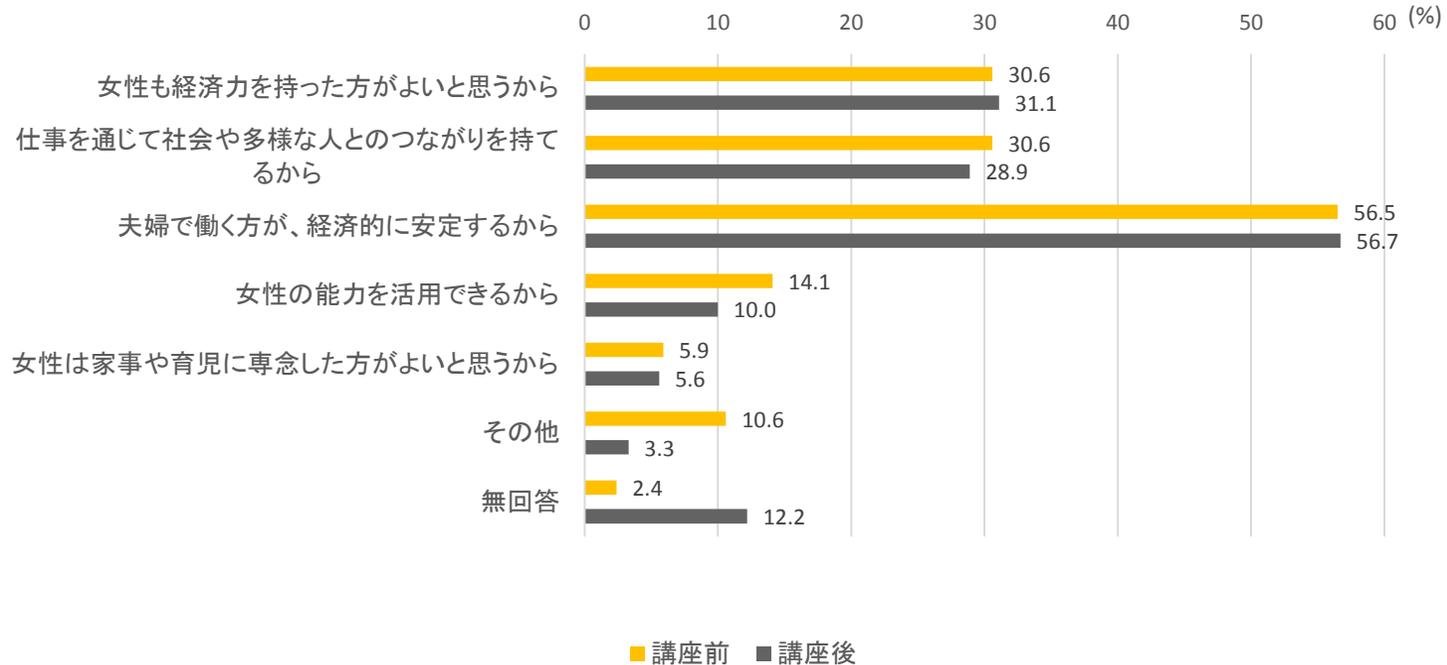
【事後アンケート】

- ・個人の自由

〔傾向〕

女性の働き方の問いでは、講座の前後とも「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」と答えた学生が最も多かった。講座前後の増減として、講座前は48.2%であったのが、講座後は9.3%減り38.9%となった。次に、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」の回答が多く、講座前は30.6%であったのが、講座後は2.7%減り33.3%となった。

問6 女性の働き方について、問5の回答のように考えるのはなぜか？(複数回答可)



～問6「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・自分のためにお金をつかいたい
- ・一人一人、経済状況や家庭内状況等が違うため
- ・自営業だから
- ・働きたいから
- ・やりたい仕事に力を入れてプロになりたい
- ・仕事を続けたいから
- ・結婚がしんどいから
- ・場合による

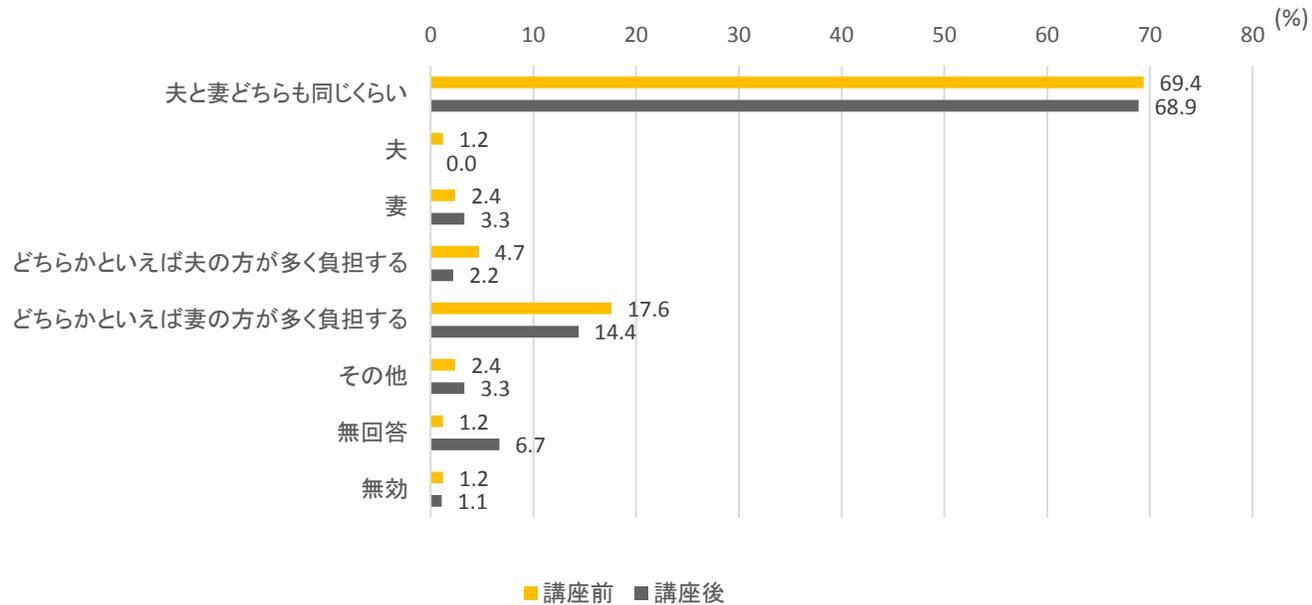
【事後アンケート】

- ・働くことが好きだから
- ・3歳までは子どもを育てたほうが良いと思う
- ・結婚や子育ての意欲がわからないから

〔傾向〕

講座前後の主な増減として、「女性の能力を活用できるから」は14.1%から4.1%減り10.0%に、「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」は30.6%から1.7%減り28.9%となった。

問7 結婚したら家事や育児はだれが担うのが理想か



～問7「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・勤務時間に応じて分担
- ・ハウスキーパーで時間が空いている時は夫婦のどちらか

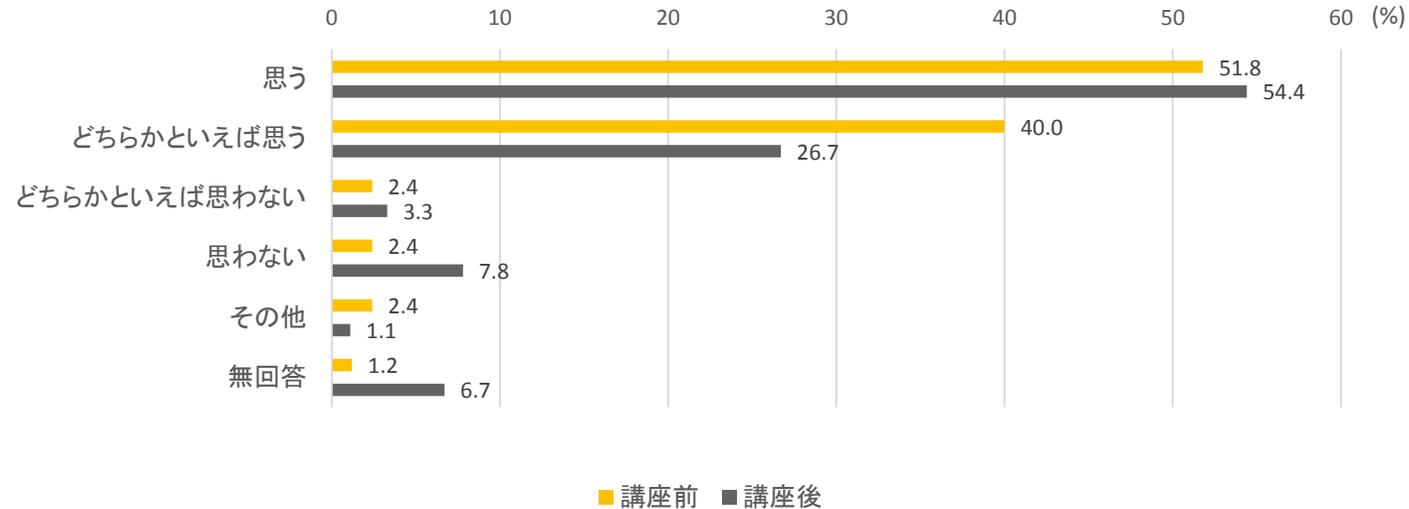
【事後アンケート】

- ・ハウスキーパー
- ・結婚しない
- ・勤務時間の長さに応じる

〔傾向〕

結婚後の家事分担については、多くの学生が「夫と妻どちらも同じくらい」分担すると答えており、講座の前後で大きな変化は見られなかった。

問8 政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか？



～問8「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・どちらでもよい
- ・女性がトップに立ったらうーんって感じがする

【事後アンケート】

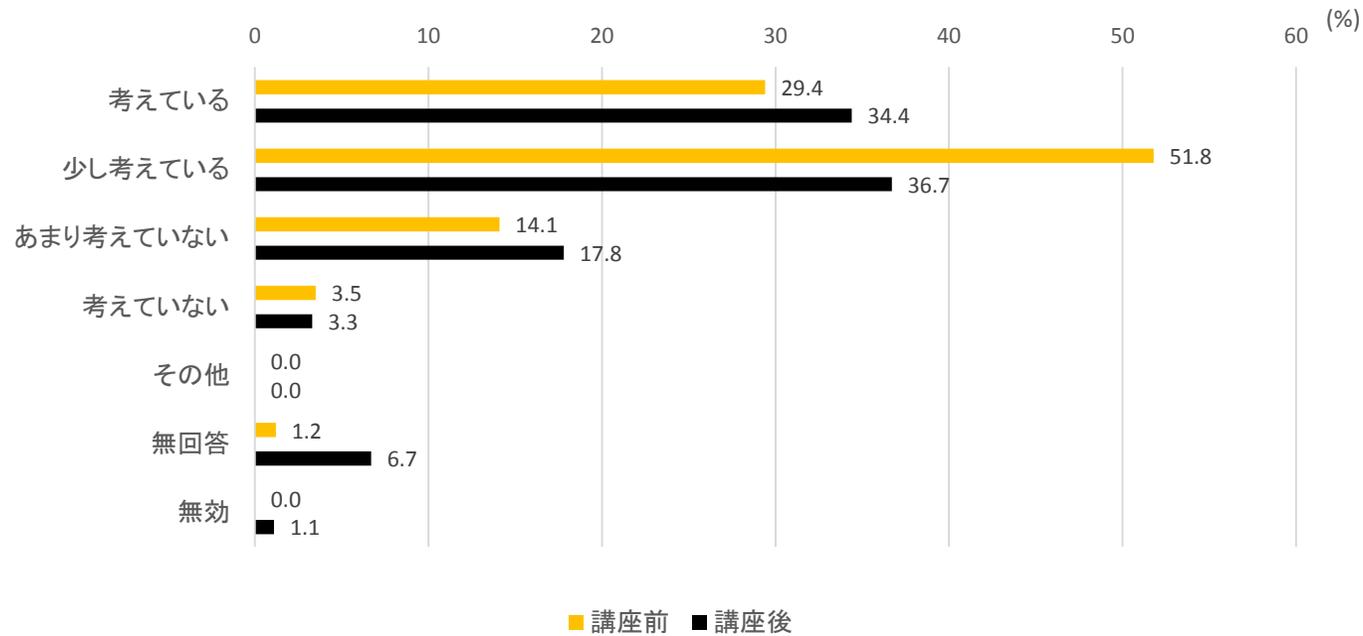
- ・能力があれば誰でも

〔傾向〕

「あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、「思う」と答えた学生が講座の前後も過半数を超えた。「その他」の回答として「能力があれば誰でも」などが挙げられた。

また、講座前は「どちらかといえば思う」という曖昧な意見が、講座後には若干ではあるが、「思う」「思わない」の明確な意見に移行している様が見える。

問9 将来に向けて、今何をすべきか考えているか？



～問9「その他」の理由～

【事業前】

記載なし

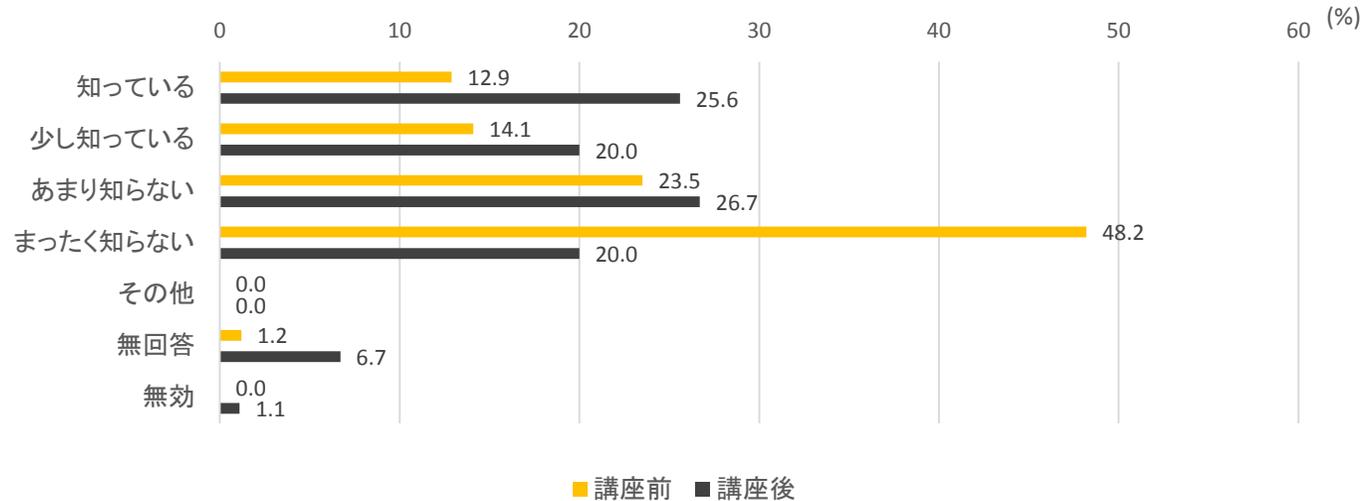
【事業後】

記載なし

〔傾向〕

「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、講座の前後とも「少し考えている」を選んだ学生が多かった。しかし、講座前は51.8%であったのが、講座後は15.1%減り36.7%となった。講座前は将来について漠然と考えていたのが、講座後は「考えている」と具体的に考える人の割合が若干ではあるが増えていることがわかる。

問10 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか？



～問10「その他」の理由～

【事業前】

記載なし

【事業後】

記載なし

〔傾向〕

ワーク・ライフ・バランスについての問いでは、講座前は「まったく知らない」とする回答が5割弱を占めていたが、講座後は2割に減った。それに伴い、「知っている」は12.7%増え、「少し知っている」は5.9%増えた。

まとめ

今回の学生への意識啓発事業では「先輩たちに学ぶ これからのキャリアデザイン」のテーマで、県内で働く3名の方をパネリストに迎えパネルトークを実施しました。パネリストには、元保育士でJICAの保育ボランティアとして中国に赴任した後に東日本大震災の被災地でボランティアとして働き、現在は県職員として勤務する鶴田氏、社会福祉協議会に勤務する傍らプライベートでは革細工の講師や子ども食堂のボランティアとして活動する榎木(ちしゃき)氏、研修事業のインストラクターや離職者向けの再就職支援を担当し、プライベートでは2児の母親である株式会社ジェピックの岩永氏に登壇いただきました。また、コーディネーターは、ワーク・ライフ・バランスコンサルタントとして組織活性・働き方見直しなどのコンサルティング活動を行っている株式会社アテンドの福成氏に務めていただきました。

パネルトークでは、パネリストの学生時代の経験や職業選択の動機、社会人となり今に至るまでの成長や苦勞、仕事と私生活のバランスのとり方などをそれぞれお話いただきました。

アンケートの結果から、九州龍谷短期大学の学生の意識変化について、以下のとおり推察することができました。

○働く目的について

「問1 働く目的」では、これまで学生が働く目的について漠然と思い描いていたことが、パネリストの生き方や働き方を学ぶことにより、「生きがいを見つけたい」、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」との回答が増えたことは、将来働く目的について具体的に考える機会になったのではないかと考えられます。

このことは「問9 将来に向けて今何をすべきかを考えているか」の回答でも同じことが言えます。

○就職先を選ぶ基準について

「問2 就職先を選ぶ基準」では、一つのキャリアに固執することなくキャリアアップのための転職もあり得ることなど、パネリストの職歴を活かした転職の話等聞くことで、「働きがいがある」を重視する割合が増えるなど、学生の視野が広がったのではないかと考えられます。

このことは、「問3 働き方の形態」の結果でも同様のことが参考になったことが伺えます。

○働くときに地元を離れることについて

「問4 働くときには地元を離れたくないか」では、パネリストには地元で働き続ける方、海外や県外での勤務を経て地元に戻り転職をした方など状況はそれぞれ違いましたが、「どちらかといえば離れたくない」の回答が増えたことは、各パネリストの話から地元で働くことの良さを感じていただけたことがアンケートの結果からも伺えます。

○女性の働き方に対する考えについて

「問5 女性の働き方に対する考え」では、回答として「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」「結婚し子どもを育てながら仕事を続ける」を選んだ学生が多数を占めましたが、これは、パネリストから仕事と子育ての両立を学んだことで、結婚や出産時もキャリアにブランクを空けず、両立する可能性を見出してもらえたのではないかと考えます。

○女性の働き方に対する考えの理由、夫婦の家事分担について

特段の意識変化は見られませんでした。

○女性の役職への登用について

「問8 あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いには、講座前は「どちらかといえば思う」という曖昧な意見であったのが、講座後には若干ではあるが「思う」「思わない」の明確な意見に移行しています。これは女性のパネリストの生き方や働き方を学ぶことにより、明確な意見が増えたものと考えられます。

○ワーク・ライフ・バランスについて

「問10 ワーク・ライフ・バランス」については、講座前は「まったく知らない」とする回答が5割弱を占めていたが、講座後は2割に減っており、ワーク・ライフ・バランスコンサルタントであるコーディネーターの話や、パネリストのワーク・ライフ・バランスの実践談を通して、認知度が上がったものと考えられます。

今回、職種やキャリア、年代等それぞれ異なるパネリストの生き方や働き方を学ぶことで、学生が漠然と思い描いていた将来について、これからやるべきことなど具体的に考える機会になったのではないかと考えます。